



## 信仰: 反知性主義と神の知恵

**明けましておめでとうございます。** この2017年に、神は世界に、日本に、そして教会にどのような計画をお持ちなのでしょうか。みなさんも大きな期待を持ってその一歩を踏み出されたことだと思います。祝福の多い1年となりますように。

- 最近、よく「反知性主義」ということばを目に入れています。この言葉は、人々は、神学論から聖書理解に高度な知性が要求されていた説教が、一般の人の回心に繋がらないという批判から生まれたといわれています。
- そこから人々の素朴な知性にも理解でき、心情に訴え、回心を促す伝道方法が生み出され、リバイバルの一因になったとも評されています。

今、この「反知性主義」が、世界や日本の動向や政治に大きな影響を及ぼしていることが危惧されています。それが「実証性と客觀性を軽視、もしくは無視して、自分が欲するよう<sup>に</sup>世界を理解する態度のこと」として現れていると佐藤 優は著書「知性とは何か」の中で定義しています。

この危険性は、安倍内閣の数の奢りでの詭弁的な返答や国会運営にも見られると指摘されています。さらに東日本大震災による福島原発事故への東電の対応にもこの姿勢が如実に表されています。

政治家や、人間の生活や生命に関わる立場の医師、教師、警察官や宗教家から、修飾語「尊敬・聖職」が消えてきています。特権を与えられているリーダーたちがその身分に付随する「畏れ」の感覚を失い、一方的な「反知性主義」的発言をする場面が昨今多々見られます。

教会も「愛されている」、「信じるだけで救われる」、「温かい人間関係」などの情緒面に力点が置かれた宣教がなされている印象があります。そして、罪、贖い、悔い改め、赦し、回心、十字架、愛、聖化、自由などのキリスト教における基本的事項が人間的な理解に留まつたままで洗礼を授けてないか、その後もしっかりと成長に合わせて教えているかを再確認すべき時期に至っているように思います。

パウロも、自分が神から遣わされたのはバプテスマを受け、信者を増やすことではなく、正しくキリストの福音を伝えることだと述べています(Iコリント1/17)。そのため、時には道から外れた教会や信徒を厳しく戒めています。

しっかりとキリストに根付き、キリストを着て、内住のキリストに全支配権を委ね、感謝を持って現実生活を歩む(believe in Christ)ためには、自ら受けた救いの恵みの深さをもっともっと私たちは聖書から学ばなければなりません。

- 身を低くして謙虚に神の知恵を御言葉から学び、日々新たにされながら、それを体現できる歩みを願い、新しい年の一步を踏み出したいと思います。本年もよろしくご助言と祈りの支えをお願いいたします。

### ■ 先月の多くの恵みから

- ① 11/29に博多ニューライフ・チャーチの元 菊枝姉と田口真寿美姉が生のヒバとヒムロ杉を使って、「楽しい手芸の会」のメンバーを中心とした会員にクリスマス・ツリーの作成奉仕をして下さいました。見事なできあがりに皆さん大感激でした。同教会からは沢山の献金もいただきました。
- ② 12/18の礼拝はシンガーソングライターの森繁 昇兄のゴスペルとみことばの解き明かしを頂き、共に主を賛美できました。
- ③ 12/25のクリスマス礼拝は、今年も石巻山城町教会で合同礼



拝をさせていただき、ご降誕を祝い、礼拝後の「すき焼き」での「祝会」にもご一緒させて頂きました。

④ 皆さんに祈っていただいて来たフロリダに帰り癌治療をされていた鈴木和世姉は、12/19夜に、最期まで堅い信仰を持って主の御許に帰りました。残された高齢のご主人フランクさんが支えられますように覚えて下さい。

⑤ 秋田の「割り箸書道家」でハート・メッセージ主幹の斎藤美津子さんより、今年も「愛の言の葉」カレンダーを寄贈頂き、石巻福音自由C・渡波C・石巻CCC・希望の家・石巻オアシスCを通して被災者に励ましの支援ができました。

⑥ 12/1に、コーラス「花」は、地域の介護施設「花もよう」で歌の訪問ができました。

⑦ 12月も、本庄キリスト教会（吉田孝師）より自然薯と深谷ネギを沢山送って頂きました。加えて、多くの方々から支援献金・果物やお菓子、「楽しい手芸の会」のための着物等の献品を通して、支援活動と教会活動を支えて頂きました。心から感謝いたします。

⑧ 12/12に、「楽しい手芸の会」は今年1年に作成した作品の展示とクリスマス会を行い、とても楽しい時間を過ごすことができました。

⑨ 兄姉・教会からの沢山の愛と祈りのこもったクリスマスカードで励まされました。有り難うございました。

### ■ 今月、次の課題を祈っていただければ幸いです。

- ① 教会の地域から真剣に求道する人が起こされますように。
- ② 「3.11東日本大震災追悼記念会（3/11気仙沼・3/12石巻）」の準備のために。
- ③ 市民救急のために馬つ子山早天祈祷会が祝されるように。

### 群の定期集会

・礼拝（毎週日曜日）	10：00-11：30
・祈り会（毎週水曜日）	10：00-11：30
・聖書を読む会（第1火曜日）	10：30-12：00
・ほっと・Time（第3火曜日）	10：30-12：00
・コーラス「花」（第2,4木曜日）	13：30-15：00
・楽しい手芸（第2,4曜日）	10：00-12：00
・学習支援（地域の子どもの要望に応えて）	

### 信仰を詠う

#### 1月 EUODIAコンサートに身を置く

ベツレヘムの一夜と十字架せきあげて  
ひたぶる浸るEUODIAコンサート  
キリストの芳りしたたる滴となりて  
しつしつ湿む主、神の内に  
魂ゆするキリストの芳りこだまして  
降る星握るコンサート出でて))



阿部八重子

(Euodia: ギリシャ語では最高の香り、聖書ではキリストの芳り)  
10月29日石巻専修大で復興支援として開いて下さったEuodiaアンサンブルコンサートを聴く機会を戴きました。至福のひとときを受けました。

# 11月下旬-12月中旬に来訪されたと先生方・兄姉および支援活動と教会活動の様子



12/19 鈴木和世姉カリフォルニアの自宅で召天



2016年集会所と玄関のリスマス飾り付け



12/18 礼拝で森繁 昇さんが獎勵と賛美の奉仕



11/27の礼拝に松浦賢さん出席



11/28-1/1 元 菊枝姉と田中真寿美姉、クリスマスツリー制作の奉仕



12/18 森繁さんの熱きトークとゴスペルを楽しむ



12/12 楽しい手芸の会作品展示とクリスマス



12/6 聖書を読む会での真剣な学び



12/25 山城町教会でクリスマス合同礼拝



寒くなても熱く祈り合う馬っ子山早天祈祷会

## アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」=主の山に備え在りの意

恵みに感謝し、新たな望みを持って――

## 「家の教会」10年目に向かって（1）

キリスト教会「石巻祈りの家」代表 阿部 一

2008年に、神の憐れみと先見によって、教会のなかったこの地に信者だけで立ち上げることになった「石巻祈りの家」も2017年のこの年3月に10年目の活動に入ります。

その2年前に、私たちは養父母が残してくれた古くなった平屋を、地域の子ども達のために図書館と化学実験を楽しむ場所として耐震工事のリフォームをしました。しかし、神の計画は私たちの思いとは違い、主の群の集会所として用意させていたのでした。

「聖書の神を神として誠実に生きる」ことを願って集まった兄姉は、それぞれに素晴らしい賜物を持った方々で、その兄姉がその賜物を持って教会活動に積極的に関わってくれています。11名でスタートした群もこの9年間に天に召された方、大学を卒業して故郷に帰られた方、結婚と仕事の関係で石巻を離れた方、そして新しい居場所を求めて去った方がいます。「楽しい手芸の会」、コーラス「花」、「ほっと・Time」、「聖書を読む会」の活動は、その会員の賜物で続けられて来ましたし、会計の賜物を持つ人、集会記録を几帳面にとてくれる人と教会の実務的な奉仕をしてくれる会員を神は集めて下さっていたのです。

一方で、信仰が回復されて群に加わって下さった方（この方は大きなホウレンソウ農家の主婦で、いつも新鮮な野菜を運んでくれています）、そして求道の方も神は加えて下さって、小さな消えそうな灯心を守り、励まし続けてくれています。そして、10名前後の私たちの「家の教会」は、互いのことをよく分かっていて、喜びも苦しみも、悲しみも親密な交わりの中で共有されています。

今回の大震災後に、石巻では多くの教会が新しく開拓伝道を始めました。開拓伝道では、教会の核として伝道者と共に教会を建て上げて行くその地に住んでいる信徒家族の救いがカギとなります。これらの各教会にとっては石巻市民から家族単位の救いが起こされることが大きな祈りです。



牧師のいない群として、私たちは聖書の学びとキリスト教の基礎を真剣に学び、「さあ、これから地域への福音宣教」と計画・準備していた2011年に、あの大きな東日本大震災が起きました。

この時、神はこの「祈りの家」をこの地に発足させた御心を明らかされ、そのためにはこの小さな群に、素晴らしいDean宣教師を共働者としてつなぎ合わせ、神の愛を持って被災者に仕える働きができるようにして下さいました。そして、この被災者支援活動を通して、世界と日本の支援団体や教会からのボランティア、アーチスト、さらに一般の方々と大きな繋がりでき、ヘドロ上げ・清掃。リフォームだけでの奉仕だけでなく、物資と献金を持って、昨年3月までの5ヵ年にわたり私たちを支え続けてくれました。さらにおの方々が、この小さな群が神と地域の人々に仕えることができるよう覚え、この愛と祈り、励ましを今も届け下さり、私たちの群の活動を支えてくれています。

わがたましいよ。主をほめたたえよ。  
主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。詩篇 103/2

神は、私たちにこの支援活動とボランティアに来られたクリスチャンとの交わりを通して、世界中のクリスチャンは1つであること、福音宣教はことばだけでなく、私たちの群がスタートしたときに確認し合った「与えられた場所に主の救いを受けた証人として立つ」という私たちの生き方を通してなされることを再確認させてくれました。

大きな試練のただ中で、神は確かに生きて働いておられることを経験を通して会員一人一人が学びました。

この震災を通して学んだもう一つのことは、地域教会の協力の大切さということです。各教会の伝統や背景を尊重しながら内向きではなく、主の栄光のために互いに協力し、地域の繁栄のために仕える働きを前進させる信仰です。

この9年間、休むことなく継続できた礼拝・祈り会、そして主にある交わりを通して互いに学び合ったことで、会員の信仰は遅々としてではあります、地に着き、責任あるクリスチャンとして成長しています。一方で日本の他の教会と同様に、会員の高齢化が進み、この群がいつまで存続できるかはわかりません。しかし、神の恵みと皆さんの祈りの支えに感謝し、十字架を掲げた教会として主を信頼し、互いに励まし合って、忠実な歩みを続けたいと願います。本年も、祈り支えて下さるように心からお願ひいたします。